

出題 螢雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

次の土佐日記の一文を現代語訳してみましよう。

藤原のときぎざね、船路なれど、馬のはなむけす。

豆知識 雑学コラム

「はなむけ」語源は？

3月は卒業式の季節ですね。卒業式と言えば、在校生や先生から

の「はなむけの言葉」がありますね。「はなむけ」の「はな」と聞くと、卒業式に花束を渡すことから「花」を連想する方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、「鼻」が語源なのを知っていますか。今回

回はそんな「はなむけ」についてみていきましょう。「はなむけ」の由来は、平安時代のまでさかのぼります。この時代の送別会では、馬の鼻を目的地の方向に向けて、旅の無事を祈る習慣がありました。問題の文では、「馬を使わない船の旅

のなのに、馬のはなむけをしたのは面白い。」という意味です。土佐日記の作者である紀貫之は古今和歌集の編纂も行った和歌の達人として知られています。「船旅なのに馬のはなむけ」は一種の言葉遊びのような感じで紀貫之の心に響いた言葉という訳ですね。

さて、私、築樋が担当した国語の真学塾のコラムもこれで最終回となります。別れを惜しむというより、新しい門出を祝福するという意味の「はなむけ」のコラムで、皆さんの新しい門出の無事をお祈りしながら、終わりにしたいと思います。今までもありがとうございます。ございました。

【解答】

この文の「はなむけ」は「はなむけ」の「はな」は「鼻」のことである。馬の鼻を目的地の方向に向けて、旅の無事を祈る習慣があった。問題の文では、「馬を使わない船の旅

※螢雪ゼミナールからの出題は今回で終了します。